

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 CL 大川、SL 桐原、松本、犬飼、三浦

以上 5 名

2 山城・ルート 北アルプス 劔岳 源次郎尾根

3 交通手段 電車 車 バス

## 4 行動記録

入山日 2016 年 8 月 12 日 山中 2 泊

8/12 6:30 ケーブルカー乗車→バス→8:00 室堂ターミナル→8:30 雷鳥荘→10:35 劔御前小舎 10:55→11:30 劔沢キャンプ場(泊)

8/13 3:28 出発→3:40 劔沢小屋→4:18 劔沢雪渓右岸(夏道)→4:44 平蔵谷出合より手前より雪渓下る。クラック、シュルンド多し→4:54 平蔵谷出合→5:00 源次郎尾根 I 峰取付き→9:00 I 峰→10:10 II 峰(懸垂下降)  
→12:15 源次郎尾根 III 峰(劔岳本峰)→12:40 下山開始→14:23 前劔→15:30 一服劔→16:07 劔山荘(トイレ休憩) 16:20→16:50 劔沢小屋(売店立ち寄り)→水汲み→17:10 劔沢キャンプ場

8/14 4:40 出発→5:50 劔御前小舎→7:40 雷鳥荘→8:10 ミクリガ池温泉(休憩)→8:30 室堂ターミナル

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

ほぼ、予定通り行動。

b 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか 発生した場合は具体的に記す特になし。

## 感想

昨年、秋より劔の練成山行ということで井谷さん大川さん主導のもとメンバーがアルパイニングを開始。私の場合は夏山教室の企画班であったため夏山教室が終わるまでなかなか練習には参加できないでいたが、7月より3~4回ほど参加させて頂き、なんとか今回の源次郎尾根班として参加させて頂くことができました。

今季の劔沢雪渓は非常に状態が悪く、山行も危ぶまれたが、直近の情報のもと実施できた。ハイマツ帯をくぐることが何度もあり非常に別の体力を必要としたが、I 峰を通過することが今回の関門であるためまずそれを念頭に置いた。右手には八ッ峰がそびえ、ルンゼルートから落石の轟音が鳴り響き、バリエーションルートの怖さを肌で感じた。

やっと I 峰を抜けると II 峰。その懸垂下降も無事通過し、III 峰(本峰)へのルート。落石多く道なき道を行きながら、その先に休憩する人が見えそこを目指した。近づくと祠が見えてそこが山頂だとわかった。

昨年は、個人的に劔岳を一般ルート行ったが、今回の源次郎尾根ルートでまた違った劔の山容を見ることができて良かった。下山時に大川さんたちの遭難時の雪洞の場所をみて劔

の険しさを改めて感じました。

帰宅後、自分の作成した、山行時間の目安と今回の通過時間を比較したら、I峰で30分程度差が出たが他の地点では10分程度の差しかなくほぼ同時到着であった。ゆったりと感じたが良いタイムだったと思う。また、体力と技術を身に着けまたいろんなルートへ行ってみたい。源次郎尾根班の皆さま有難うございました。

松本

去年の8月井谷さんで行った剣尾根からの帰りに、アルパインクライミングをもっと会のメンバーに広げるために、剣岳練成山行を企画しようという事になり、10月に立ち上げました。当初20名程度の参加者でスタートし、参加者が自主的にトレーニング計画を企画する形で進めていきました。5月のGW明けからは、ほぼ毎週トレーニングに励み、メンバーは本当に良く頑張りました。

本番出発までに、色々なアクシデントがあり、最終的には11名の参加となりましたが、11名全員が登頂できたことは、大変価値のあることと思います。

それにも増して、本番に参加できなかったメンバーも含めて、沢山トレーニングし、メンバーそれぞれのレベルが上がったことと、チームワークができたことが、最大の収穫だったと思います。

今回の山行では、まだまだ剣岳の一部しか経験できていないし、もっと会員に広げて行きたいと思いますので、この企画を継続してできればと思っています。

大川

源次郎は2回目。前に登ったのは三十数年前、5月でアイゼンワークと懸垂下降終了後ロープが回収できなくて、後続のパーティーに回収を手伝ってもらったのを覚えているだけです。それ以来、剣岳から足が遠のいていました。

今回、岩を登って見たい気も一寸ありましたが、過去を振り返る理由ではないがどんな尾根なのか、もう一度歩いて見たいと思い源次郎に決めました。

剣沢雪溪の状態が悪く尾根への取り付きに行けるか、登れるかどうか心配でしたが登れて良かったです。尾根に取り付いてみると、草付き、ブッシュ漕ぎ、岩場、ガレ場、懸垂下降と変化に富んでいました。またザックが木に引っかかり思い通り前に進めず、滑落、落石を起こさないように一人一人が慎重に登りました。下山コースを含めて気を緩めることができず、総合的な体力、技術が必要でした。

下山途中、大川さんから事故現場の説明があり、源次郎を登っている最中も長次郎雪溪で落石の轟音が響き背筋が寒くなりました。山は、何時でも、何処でも危険と隣の合わせであること、いつでも事故は起こることを痛感しました。

昨年秋から皆で長期に渡って練習に励み、良くまとまったチームで楽しい山行ができました。

源次郎のみなさん、ありがとうございました。

桐原 忠

昨年10月より始まったトレーニングは、都合で参加できない時もありましたが、それでも少しずつ慣れていき、できるだけ間を開けずに継続することが大事だと実感しました。コースには穴の多い雪溪や根や枝に阻まれるハイマツ帯や滑りやすい草付き、脆く崩れやすい岩など多くあり、しっかりルートを見極めないと危険で、登山道として整備されていないところに行く困難さが分かりました。岩稜帯ではザックを背負って登るのはやや難しいところもありましたが、トレーニングの効果があったのではと思います。また長いルー

トのため体力面で不安がありましたが、やはり登り始めから大変呼吸が苦しく、ゆっくり少しずつのマイペースな歩きになりました。下山ルートではさらに疲れてペースが落ちましたが、班の皆さんが忍耐強く励ましながら一緒に進んでくださったおかげで、何とか歩き切ることができました。

源次郎尾根からの八ツ峰の眺めは素晴らしく、本当に来れてよかったと思いました。

源次郎尾根班の皆さま、ありがとうございました。

三浦

本番直前の七月には殺人的暑さの中、みんなで黙々と RC トレーニングに励みました。岩が熱すぎて人間石焼ビビンバ状態でした。また、ボッカの日もあまりにも暑すぎるので、もう終わりにしたい～早くアルプスに行きたい～と切実に思いました。

そしていよいよ本番。源次郎尾根の取り付きまで歩く 劔沢雪渓の状態が悪いため、源次郎尾根から登れるかどうか前日までやきもきしましたが計画通り登ることに決定。やりきるチャンスを得た、と思いました。今回はのんびりペースで歩いたので景色をたっぷり眺めることができました。源次郎尾根から見える八ツ峰の眺めは特に素晴らしかったです。劔岳本峰が見えてからは今まで一緒にトレーニングをしてきた本峰南壁チームの皆さんの姿が見えないかなあ、と思いましたが残念ながら見えませんでした。私たちは一番遅くに劔沢のテント場へ戻りましたが、他の班のみなさんが手を振って笑顔で温かく迎えて下さったのも感激しました。まるで遠く離れた実家に数年ぶりに帰省したみたいでした（笑）数ヶ月に渡るトレーニング期間を含め、劔岳錬成メンバーの皆さまには大変お世話になりました。源次郎尾根チームのチームワークはバッチリでしたね。皆さま、ありがとうございました。

犬飼



報告者氏名 大川 肇 平成 28 年 8 月 18 日